

コウノトリの定着を目指したビオトープ整備とその機能を学ぶプログラムづくり

キーワード：コウノトリ、ビオトープ、水生動物、環境学習



耕作放棄地を再生したビオトープの整備 5 ha 民間主導で整備。活動資金は、NPO法人の会費や財団等からの助成金を活用

● 大麻町エリア 約2.2ha コウノトリ生息地となっているレンコン栽培地域内に整備

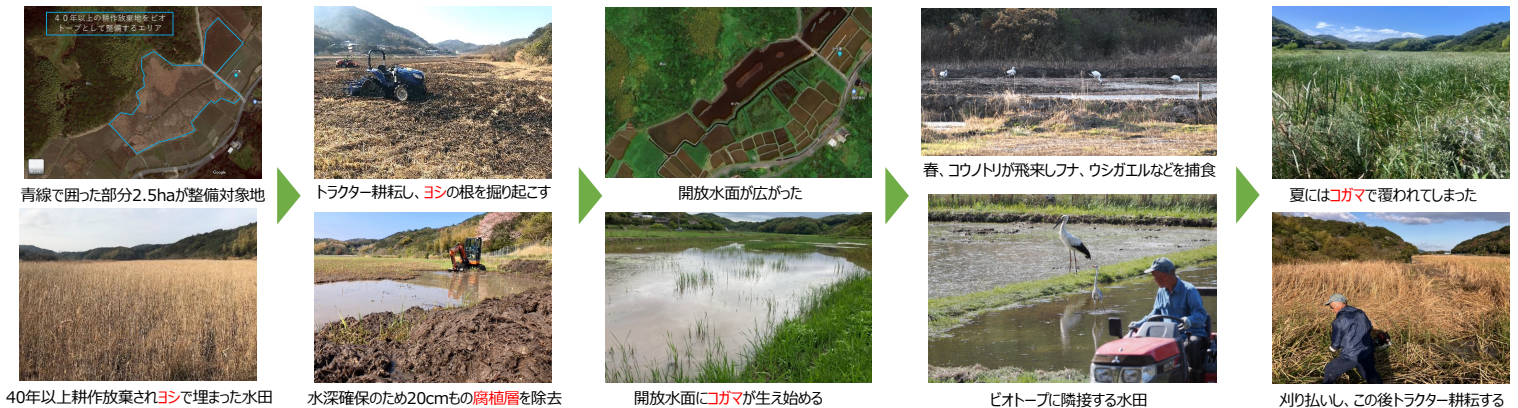


陸地化した耕作放棄地 → 水田状態を再生し、開放水面を作る → フナ、ドジョウ、カエル、ヤゴ、アメリカザリガニなど水生動物が増える → コウノトリが餌場として利用

野生化したレンコン、コガマ、ヒエ類などで水面が覆われる → 春から夏にかけ5回程度のトラクター耕転で開放水面を確保する → 常時湛水4年目で地盤が緩みセミクローラ型トラクターも使用不能に

● 島田島エリア 約2.5ha コウノトリの新しい生息地を目指して整備

地元農家が組織した「島田島にコウノトリを呼ぶ会」が、整備・維持管理作業を担当、当法人は技術・資金支援



青線で囲った部分2.5haが整備対象地 → トラクター耕転し、3シの根を掘り起こす → 開放水面が広がった → 春、コウノトリが飛来しフナ、ウシガエルなどを捕食 → 夏にはコガマが覆われてしまった

40年以上耕作放棄され3シで埋まった水田 → 水深確保のため20cmもの腐植層を除去 → 開放水面にコガマが生え始める → ビオトープに隣接する水田 → 刈り払いし、この後トラクター耕転する

成果 陸地化した耕作放棄地を整備・湛水すると水生動物の応答は早く、すぐに多様な水生動物の生息数が増加する。コウノトリが飛来する地域では、浅い開放水面（水深10～20cm）を作るとコウノトリやサギ類の餌場となる。

課題 浅い開放水面を確保したいが、植物の制御が極めて困難。トラクター耕転で植物の過繁茂を抑制できるが、3年間常時湛水すると、地盤が緩みトラクターの使用が困難になる。

ビオトープをフィールドとした学習プログラム

● 小学生や親子を対象に提供している学習プログラム

- ・整備しているビオトープに近い堀江北小学校では1学期に7回の授業を実施
- ・コープ自然派の組合員家族や、ホテルアオアヲリゾートの客を対象にした学習会を実施

● 徳島大学の学生に提供している学習プログラム

- ・耕作放棄地問題を学ぶ機会を提供
- ・水生動物の増殖技術の実験や調査研究のフィールドを提供



堀江北小学校の授業 コウノトリを頂点とする生態系について学ぶ

耕作放棄地の状況を学ぶ

水生動物の調査

コープ自然派の組合員家族のフィールド学習

ホテルの客家族を対象とした観察会

竹でウナギ魚礁を作成

ウナギ魚礁を設置する